

藤田浩子の 少し昔のこと 〈67〉

チケット

前回「切符」のことを書いたら、今は「切符」と言わずに「チケット」というのだと教えられました。でも私の中では「切符」と「チケット」は違うのです。相撲のチケットが手に入ったとか、歌舞伎のチケットを買ったとか、私の中では「入場券」のことが「チケット」で、乗り物に乗るときに買うのは「切符」です。どちらも英語にすれば TICKET でしょうね。でも、私の中では違うのです。

同様に、もとはどちらも MILK でしょうが、いつも飲むのは「牛乳」で、粉ミルクやコンデンスミルクは「ミルク」です。おなじ SKIMMILK でも、いまスーパーで売っているのはスキムミルクで、昔学校給食で出されたのは脱脂粉乳です。CUP は、ガラスのものはコップで(英語では GLASS というのかな)、瀬戸物でできて

いるコーヒーカップやマグカップはカップと発音します。



西洋料理を食べるときに使うのがナイフで、野菜を切るのは包丁です。どういう事情でそうなったのかはわかりませんが、私の中では牛乳とミルクは違うし、スキムミルクと脱脂粉乳は違うのです。

日本語はひらがなもカタカナも漢字もありますから、外国語を取り入れるのに便利なものかもしれませんが。

アメリカで自己紹介をするときに、私の名前は「ふじたひろこ」または「フジタヒロコ」または「藤田浩子」または「FUJITA HIROKO」と黒板(白板)に書いたら、4通りも書き方があるのかと驚かれました。外国語に「…する」をつければ、すぐ日本語になりますし。「ハグする」「キスする」「カットする」。「サボタージュする」は省略して「サボる」がもう日本語のようになっています。それだけに日本語化した英語を知ったかぶりして使うと恥をかくかもしれませんね。

(カット:門井すみ子さん)

リレー連載 <200>

わたしの大好きな絵本

すーちゃん (おはなしおはなしゲーチョコキパー)

『100年たったら』

文・石井 睦美

絵・あべ 弘士

アリス館

読み終わるとなんだか、あったか~い気持ちになります。

広い草原で孤独に生きてきた一匹のライオンが出会ったのは、一羽の瀕死の鳥。鳥はライオンに歌を歌い、ライオンはたてがみの中を鳥のねぐらに。寄り添って過ごす幸せな時間にもやがて別れが訪れる。おいおい泣くライオンに、「100年たったら、また会えるよ。」と告げて旅立つ鳥。

100年たったら…ライオンは岩場にはりつく貝に、鳥は海の小さな波に。

100年たったら…ライオンは3人の孫のいるおばあさんに、鳥は赤いひなげしの花に。そして何度目かの100年がたったとき…

別れは必ずやってくるけど、生まれ変わって何度でもまた会える。姿かたちは変わっても必ず会える。

「輪廻転生」とかそんな難しいことではなくて、縁があってまためぐり合えるって考えると「それっていいな~。」とロマンと奥深さを感じたお話でした。

長い時間をともに過ごす仲間が「生まれ変わったら河原のススキになりたい!」と…。100年たったらきっと、生える大地、降り注ぐ光、そよぐ風、照らす月、降る雨、そばを流れる川となり、めぐり合ってたワイワイガヤガヤしているのかな~。(きっとそうだ!!)

